

四十組之記  
風

宇治名所香 源氏盛極時香  
難波名所香 乙女香  
玉川香 空王蟬香  
二見香 翠戀歌香  
陸奥名所香 松風香

ヲ多  
1338  
29





門多  
1338  
卷 29



四十組之内 風

宇治名所香

源氏京極所香

雅波名所香

乙女香

玉川香

空蟬香

二見香

四季恋歌合香

陸奥名所香

松風香



新真香

一頁香

三川香

紫文香

千六香

香

四本香

五本香

丁香

刺香

四十點之内 風

宇治名所香

香五種

小崎崎 二色 傳内 一包 試

山吹瀬 右同行

橋姫 右同行



扇芝

右同

朝日山

右同

右試紙にて五色五包打交内より一包取極

も中紙にて右番紙は世傳書にてたの

二思ふ山は扇書三思ふの楊紙四

思ふ家書五思ふの朝日山一思ふの

山一思ふの扇書一張四包の内一巻をとり

今一包は西書こゝあり是れ追加の紙

よもゝあり其外記の表を替へて考

たの



小崎  
山崎  
橋姫  
|  
|

宇治名所香之記  
|  
|

朝山  
|  
|

名 橋姫  
|  
|

名 朝山  
|  
|

月日  
|  
|

出香  
|  
|

名衆  
|  
|

記録之小嶋至介

香土校

題次

卷一

右同



雜波名所考

香五種

雜波

二色德内一色試

象深

右同

小崎

右同

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



住吉

右同

更級

一色休

右試みく出香五包お交り申す試合  
礼打身又名来試す申す礼の交り

雛波

梅の礼

系浮

櫻の礼

小嶋

橋の礼

住吉

京の礼

更級

一月の礼

右礼の表紋



札の裏 梅 橋 橋 柔 月

む 文字 なく 主 附 之 一人 亦 五 枚 十 人 亦  
亦 枚 多 折 記 の 表 之 徒 之 身 方 大 の 一

雅 波 名 所 考 之 記

少崎 更級 住吉 護 系 厚

<sup>名</sup>金 橋

月 柔 梅 橋 樹

<sup>名</sup>吳 竹

橋 月 柔 梅 樹

月 日

出 香 名 集

さうく 先 小 咽 入



世公... 每... 香... 月

在文... 月... 日... 一... 出... 查... 案... 本...

集... 秋... 餘... 集... 餘... 餘... 餘... 餘...

金... 月... 未... 餘... 餘... 餘... 餘... 餘...

餘... 餘... 餘... 餘... 餘... 餘... 餘... 餘...

香... 玉川香... 北... 中... 南... 西... 東... 國... 文...

香... 六... 種... 香... 香... 香... 香... 香... 香...

香... 香... 香... 香... 香... 香... 香... 香...

香... 潤... 布... 之... 之... 左... 同... 以... 香...

香... 子... 鳥... 之... 之... 右... 同... 以... 香...



山吹

右同り

卯花

右同り

玉川

一包徳蔵

右初座担の付名乗紙の四の巻を記し  
打文法をいしをいし誰何と其四と

名乗を記録し字を記し記を紙に玉の  
傍に書し一紙試みし出さる包打文  
法をいし一山吹の巻其右所の香  
何種月下有り是又玉何の何種月あり  
す名乗紙に書し本香より合



一 五五五五五 岡 名所たのこ

近江 萩 武藏 洞布

陸奥 鳥 山城 山吹

播磨 和瓦 紀伊 玉川

右 紀伊の地 國の事 各香同あり

為公名月川之たのこ

近江

あなをんおの玉川 萩のこ  
いふはく一月や

武藏

玉川はさか洞布 さか  
さか



陸奥

シヨル 陸奥城 一ノノノノ  
野田の玉川 一ノノノノ

山城

駒ノノノ 陸奥ノノノ 山ノノノ  
カノノノ 陸奥ノノノ 川ノノノ

摂津

スノノノ 波ノノノ 川ノノノ  
卯ノノノ 陸奥ノノノ 川ノノノ

紀伊

高ノノノ 陸奥ノノノ 城ノノノ  
高ノノノ 陸奥ノノノ 川ノノノ

紀伊友の



長 個子 山吹 卯辰 玉川

玉川香之記

洞布 辰 子香 卯辰 山吹 玉川

近江 三秋 六玉川 一

名 攝津 四裂 六玉川 叶

月日 出香 久乘

記録先ノ懐之

又太の字六包不残記録

不才も記

のよのを春

中ノ春の山吹を春 夏卯辰の花を春







新玉川香記

近江 振津 山城 紀伊 武庫 陸奥

萩 山吹 一

真 一 玉川 一

名 萩 山吹 玉川 洞布 山吹 全

名 真 山吹 玉川 萩 洞布 山吹 全

多岐の地神といふ所の野田の玉川

初冬

出香 名無

まろくは。腹をゆるし時をよそへいづるま

用をゆるし 去ろくろくろの式本式

なす依之後と新玉川とよろ



新刊川書記

用... 本...

後水尾院和作

二見香

香三種

由之丹...

...

...



右神、一色二色各一色加えて五色を文  
様とし、次に二色三色残り有るを文  
内の一色又二色様とし、此内各一色有り  
無くとお合て名をあたはせしむ。始の五色  
は、本香を聞き、後の二色の先の本香

と聞き、終り聞かば十粒香の如くは、  
去りしより始り上り、一二各の文字を書下し  
右各目、よつと、おとせ、後の二種のより  
二見とせ下し、一二各の文字をくせし、  
本香の如く、一角のより、書始、五粒の如



五文字のかゝるを今一併し始の五文字の  
香五種は五文字のなるを今一併し  
海の色ハ二種也ハ二見の二字を  
今一併し今一人ハ五文字を今一併し  
扱ふも五種ハ一併し扱ふも一併し

の文字ハ一併し一併し一併し  
二種ハ南ハ五種ハ二見ハ一併し  
但し初後の各ハ一併し一併し  
七五種ハ一併し一併し一併し  
一併し一併し一併し一併し



歌たのそし...

夕月おあつ...

記録たのそし...

二見香て記...

ニ見のしら...

名香一...

名一...

月日 出香名衆

まろく七...



香のついでに

香のついでに

香のついでに

香のついでに

香のついでに

陸奥名所香

香三種

松嶋

香のついでに

香のついでに



右試みくく出香五色お交内二色おすこ  
名乗れよと附おまじ可古法れこれ左のこ

札の表常のこ

札の裏

松島 雄島 雄島  
雄島 雄島  
雄島 雄島

羅嶋 羅嶋 煙 月

己上八枚や十人系八十枚

れのこ

松島 松島  
松島 松島

松島 松島  
松島 松島











浅りの伝

右十六枚の銘、條あり之も依お右所  
右札の付り如し又記紙をくす時とまら  
まの右の通の右所を思へし相持名乗  
ことち多し記紙をくす右の名所と書

有飛し先の時字をへし一紙記の表を  
終りてまらたの事

陸奥名所番て記

松島 小舟

松島 一  
陸奥 一

小舟 一

信史名字摺

松島 一



名古多閑

雄順小肉

月日

出香為系所

寺海一先王方人走一 相續在來

本寺のりふに流るる水は茶室の味

深氏京極町香

香五種

紫土

右同

右同



香五種

出香

香五種

源氏京極四所香

香五種

紫上

女三

花散



明石とて 右目り

原氏とて 一色同徳は試

右試色の上より夫々の名目とて古なり 扱試終り  
て出香十三色打交柱出まふ 試合札打  
原氏の南りの長点より一人中置二人中二点

三人が二点より 外香の平点と但し又中長点より  
二人より平点より但し一人中長点より二点の平点  
平点と左の二点より 其外常のより 扱  
記の面より 准知より 一色同徳は試  
内四席香と同一意とて唯西の方秋好中宮



と女三の宮の明の年之記をの

此堂

女三宮

明名

源氏喜極四所香之記

明花三紫明明原三花三紫紫

名札

明花三紫明明紫紫三花花三原 七

名札

明花三紫明明紫紫三花花三原 全

月日

出香名集

記録先唯中全



六十三の草... 乙女香... 乙女香

凡日

乙女香

乙

乙女香... 乙女香

乙

乙女香... 乙女香

乙女香... 乙女香

乙女香... 乙女香

乙女香... 乙女香

乙女香... 乙女香

乙女香... 乙女香



奏して

一色徳を儀

右初。一。二。二。二。三。三。三。三。二色成。三。結ひ。一。結ひ。五。右。三。結ひ。結ひ。結ひ。打交。先。一。結ひ。の内。二。色。成。又。一。結ひ。の内。一。色。成。先。各。一。種。加。へ。四。色。一。打交。は。出。ま。さ。る。一。結ひ。の。中。に。

二。柱。有。り。の。上。紫。の。上。一。種。つ。り。結ひ。出。ま。さ。る。花。歌。里。後。有。物。と。原。氏。と。書。次。又。一。結ひ。の内。二。色。又。一。結ひ。の内。一。色。取。り。上。五。色。打交。柱。出。ま。さ。る。次。は。又。一。結ひ。の内。二。色。と。

始。一。種。と。不。取。一。結ひ。の内。一。色。又。一。結ひ。の内。始。一。結ひ。の内。二。色。の。中。に。又。一。結ひ。の内。一。色。と。始。二。色。成。り。た。る。二。色。の。中。に。



浴のつと初の一ツ有とのと秋

後、二ツ有とのと中宮と秋好中宮の年より一ツ有物

と三田姫と女その後二ツ扱又一包紙柱めを

焼てとと初九柱の角何とと中てと付

出まへ一柱の本香と削り後柱とす

書角一右一柱の南の人と明石の上と書

不南人の御女月と書角一出香の下と歌と

書角又柱の間の下と書角一と秋

五柱斗とと書角又案の上と三柱とと書

後五柱の角と書角と書角と次の方



書角一 又上京の上 各種の書 後五條  
内々 立田 飛中 遠近の 立田 飛中  
紅葉と 去り 夫が ぬき 立田 飛中 記  
限は 休む へき あり 一月 秋五種 共 立田 飛中  
この 字 不書 へき 山石 根の 紅と 書角一

歌左の

心く 春待園 口の 名の  
ゆき ちり 雪の ちり 雪の ちり 雪の

風 ちり 雪の ちり 雪の ちり 雪の  
山石 根の 紅と 書角一

又れ とも 書角一 古書 何と 執事  
ふ ちり 雪の ちり 雪の ちり 雪の



る。執事始に四柱の内二柱有りの傍に春  
と一柱有りと同傍に其の下の各香の  
其儘を各一柱にすの各を原氏其と  
原氏もすも後の片方の次もよく同  
と南よあま

後の五柱の二柱有香の傍に立田姫と書先よ  
二柱出ると同傍に秋とす。後二柱有と  
傍にす。とす。年たて。和の花散軍と後  
の内より合はる。記紙に一二三ウの文字  
を傍に記し出ると。危角十柱香の意を



中巻 始四巻後五巻中巻終く又一巻中  
合十巻あり記録を終りの一巻の文章歌  
の下に其出香の文章と何れも中巻に在端  
中巻終り一巻終り一巻終り書あり  
五巻終り一巻終り一巻終り合十巻  
終り終り一巻終り一巻終り合十巻

後秋の五柱の内よせは一巻終り有と  
五田姫と書ありたて何れも終り終り  
五田姫と合十巻終り秋の香の初よ一柱出  
り終り花散里と又一巻終り不出香終  
後の明石の上と合十巻終り何れも秋何れ



明石上則何の花散里又何の中宮何の中宮南

又何の花散里何の秋好何の中宮

何の中宮何の中宮何の明石上何の則

又客と花散里何の外宮南何の則

南何の始四柱何の春夏何の

次五柱と秋何の一柱何の冬

分り何の各目入何の

草紙何の及何の折何の記何のの何の画何のえ何の

可考何の左何の











軒端の紙より 一色俵に蔵す

右に試みしに空幞原氏小君と三色取打交て  
柱出まへしに中紙より空幞二包と一色紙各  
香彩端の紙を入しに原氏一包と加すに  
と交交するなり 此の空幞といふは昔今

記原本香より其代空幞と書あり 右紙  
りて空幞一包原氏一包残りたるを打交  
一包紙柱出り始合す所をさへしに空幞の  
初よりと出香の下に書原氏より次の事と  
記の事を書記するに空幞とすなる事







まろく 是は 須磨 香

此の香は 須磨 香 木 水 二

此の香は 須磨 香 木 水 二

此の香は 須磨 香 木 水 二

此の香は 須磨 香 木 水 二

四季 香 歌 合 香

香 五 種

一 春 香

二 夏 香

三 秋 香

右 同 以



四々々々 右同り

五々々々 右同り

右試法く本香五包を交内を一包取  
出四季の内出く春夏秋冬の文字  
を付法く一三三四五の文字を

書付出を扱法く四包の内一包を  
出く本香の四季の題と四種の香  
合々題一書付下二三四五の文字を  
付く四季の内秋出れ三の香  
其外一三四五の題を其外の季



先づ順とてし又修のまゝ十首改め

月一三三四五組の内より書附下より三三

四五の文字出よ及よん則後の改付と

又て其瓜の香南より点く魚一其外

点修屋の次牙始のやう同ち点多き時ハ

勝人同点すれに双方の字は持とすなり

右四季各四首づの題たのこし

春一湖上霞 二雪中鳥 三梅董袖 四花送日

夏一曉更花橋 二深窓郭公 三蝉色涼 四雨後夏月

秋一山家月 二雲回井 三野外麻 四雀覓虫



冬一 嵐峰 二 古寺鐘 三 屋上霞 四 園路雪

冬一 忍冬 二 別表 三 恨表 四 逢表

又十首探題

春一 早春若菜 二 水也柳 三 野徑雲在 四 雪中苗代  
春一 海辺残雪 二 行路梅 三 空山花 四 籬款冬  
春一 山幽 二 行路梅 三 空山花 四 才上藤

夏一 首夏風 二 照射処 三 夕立雲 四 木陰納涼  
夏一 庭翟麦 二 名所鴉川 三 里蚊き大 四 堂火近林  
夏一 卯花似月 二 名所鴉川 三 里蚊き大 四 御後

秋一 早秋晚 二 洞夜麻 三 田家秋魚 四 暮秋雨  
秋一 古柳萩 二 遠里砧 三 秋葉風 四 山路と和  
秋一 行人隔芳 二 遠里砧 三 秋葉風 四 水郷紅葉

冬一 朝時雨 二 枯野霜 三 浦子鳥 四 洞代雪  
冬一 夕落葉 二 池面氷 三 寒山月 四 山家歳暮  
冬一 向火 二 池面氷 三 寒山月 四 冬祝

寒一 寄若菜巻 二 寄葛藤巻 三 寄麻巻 四 寄時雨巻  
寒一 寄首巻 二 寄葵巻 三 寄菊巻 四 寄雪巻  
寒一 寄山吹巻 二 寄堂巻 三 寄紅葉巻 四 寄千鳥巻

右初度めの本 香と寒の耐ハ始り 西の題の

内々 其香の題と書けり たりハ一春の



香出らば忍恋し書角一活のやま十  
首の<sup>題</sup>内一忍恋し一組の題南ん  
或ハ寄若菜忍恋しと角一寄苜蓿  
寄山吹忍恋南ん其外あき時ハ  
の記紙とらんて其の意とれ用也望ハ

寄葵忍恋しと角一始四季の南ん  
あき時始の題とれ用也恋ハ外書ハ  
用カ角一揮領ハ終ハ一人ハ題ハ  
あき南んあき時ハ其秋冬よても恋ハ  
とれ南ん寄何とれとれ揮領の意ハ



叶魚ノ根記の表ノノ 終ノ考ノ

左ノノ 春ノノ 夏ノノ 秋ノノ 冬ノノ

四季ノ歌合ノ

春ノノ 夏ノノ 秋ノノ 冬ノノ

春ノノ 五ノノ 寄ノノ 持ノノ 名ノノ

夏ノノ 三ノノ 早ノノ 秋ノノ 名ノノ

秋ノノ 五ノノ 寄ノノ 名ノノ

冬ノノ 一ノノ 綱ノノ 代ノノ 名ノノ

月ノノ 日ノノ 出ノノ

まろノノ 是ノノ



長命の松風香

たのう月日

冬 所六通

林 四季香合香

夏 厚林香

松風香

香四種

松風の

松風の

明石の浦



各一包 一色は徳也武

右武治りて先明石の浦二包は松風の一二  
六包打文一包にて右明石三包は松風一  
出ま一の香文カニの香文とてサシ一  
ま一とワリぬ路とて二文とてサハ野中のみ

と書次は又残り香紙をて松風の二とワリぬ  
小舟七松風をて浮木と書客は各一色とて  
り書客香ありぬの下の下は奇なり書客歌  
たのこ

おとくへていしとく山屋  
きししとく松風をり







江流七ノ腹を魚ノ

系ノ松河瀬及下瀬ノ

系ノ山ノ下ノ

系ノ一ノ

系ノ





